

令和6年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 三木市立別所認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	・ 職員数の多さを活かし、小集団での会議の時間を確保している。 ・ 日々の保育の中で、4歳児が乳児組の手伝いに行ったり、5歳児発信で園内に遊びが広がったりし、学年を超えて園児同士が互いに認識し合い、交流が広がっている。 ・ 職員数が多いため、連絡事項や保育方針の周知に工夫が必要である。
目標	・ 園児も保育者も互いを知り合い、それぞれの得意を活かしてみんな仲良く！楽しく！ ・ 園児も保育者も、保育を通して交流を深める。
目標達成に向けた具体的な取組内容	・ 子どもの興味に合わせて、クラスの保育を他クラス、他学年につなげていく。 ・ クラスや学年の枠を超えてかわり合って遊ぶ「わくわくタイム」を設けている。 ・ 他クラスの日誌を見合えるようにするとともに、保育見学や合同保育を通して、保育者同士が互いに学び合う機会を設ける。 ・ クラス会議、乳児会議、幼児会議、特別支援員会議などを充実させ、子ども理解と保育の方向性を共有する。
成果	・ 年間を通して年長組発信の「みんなの願いを叶えるあじさいポスト」でのやり取りがあり、年長児が他学年のモデルになるとともに、遊びの交流が広がった。イベント的なものではなく、日々の保育の中で、自然にいろいろな学年同士がかかわり、教えたり、教えてもらったり、力をかしたり、助けてもらったりという経験を積み重ねることにより、互いを意識し合う姿が見られる。また、うさぎの世話や野菜の栽培などについて、子どもたちから得意な保育者に依頼して、仕方を教わるなど、いろいろな人とかわることで、知識や経験が広がっている。 ・ 乳児組は、研修や他園見学により「育児担当制保育」を学び、乳児会議で話し合いながら実践している。応答的なかわりを積み重ねる中で、担当保育者との信頼関係が深まり、一人一人の心が満たされることで友だちにも目が向き、つながりを感じられるようになってきている。また、幼児組は「主体性」を大切に、年齢に応じて、子どもたちが企画、運営して「みんなでできた！」と達成感を味わえるようにささえる保育を心がけている。 ・ 職員間で保育を見合う機会を設けることや保育のステキポイントを職員室内に掲示することで、乳児と幼児、他学年や他クラスのことを知り合うことにつながり、保育の中での交流や保育の質の向上につながっている。
評価	乳児は育児担当制により、子どもたちが一人一人落ち着いて遊べていると感じられる。特定の大人との愛着関係をしっかりと育んだ後に、次第に好きな遊びに集中していくように関わっている。保育環境も常に工夫を怠らず、遊びたくなるような環境や、落ち着いて過ごせるような環境が整えられている。幼児は、5歳児の「あじさいポスト」によって、使命感に満ちた活動が展開されている。個性を活かしつつも、常に他者の存在を意識しながら話し合い等が行われており、目的をもって生活していることが感じられる。また得意な大人に尋ねる活動を通して、自分たちの知識を増やすとともに、他者と積極的に関わることができるという自信をつけてきている。年齢ごとに、自分たちでできたという実感を大切にされており、子どもたちの自己肯定感を高める保育がなされている。今後も異年齢を意識した保育を継続し、子どもたちが健やかに育つよう努力していただきたい。